

一、四年公約の成果と実績を問う

答 公約はほぼ達成

中・長期展望から粘り強い取り組みが必要



大金市美議員

質問 大金町長は、農林商工業の活性化や企業誘致を促進する「協働の町づくり」、町長給与等の削減や行政組織のスリム化を推進する「行財政改革」、教育対策や新たな交通システム、子育て支援を推進する「安心・安全の町づくり」などを公約に町長に就任し、一、四年が経過しようとしている。

四年間を振り返り、その成果と実績について、町長の所感を伺う。

答弁 協働の町づくりでは、就任早々に策定した協働の町づくり推進計画の実践例として、産学官連携に

よるホンモノコ養殖や温泉

トラフグの商品開発、八溝ししまるの馬頭温泉郷での本格提供など、町民を元気づける話題となった。また、環境学習資料の作成やマイバツクキャンペーンなどを通じ、環境教育・啓発を行った。さらに地域見守りネットワークの支援体制がスタートし、住民参加の助け合いの輪が広がっている。また、子育て支援では、中学生までの子ども医療費無償化を実施。産業分野では企業立地促進条例を制定し、企業の進出や雇用の拡大につながった。

行財政改革では、町長の給料月額額の30%を、副町長、教育長は10%のカットを実施。また、第一次行財政改革推進計画では約24億



耐震化を進めている小川小学校

円の財政効果を上げた。平成24年3月に策定した第二次計画により、サービスの低下を招かない範囲でさらに定員適正化の見直しを進める。

安全・安心のまちづくりでは、震災で被災した公共施設や道路、上下水道などの復旧復興に全力を注いできた。一方、震災の災害対応を検証し、原子力災害を含めた地域防災計画の見直しを行った。教育施設については、小・中学校の耐震

化にめどをつけ、スクールバスの運行など教育環境の充実を図った。さらに新たな公共交通システムとして、デマンド交通システムを確立し、また、コミュニティバス馬頭烏山線の運行を開始、住民の足の確保に努めた。

以上、私が公約に挙げた

項目はほぼ達成し成果を上げている。しかし、少子高齢化と人口減少が急速に進行しているのが現実。働く場所の確保や人口減少を食い止めることは一朝一夕には解決できず、中長期展望を持つて粘り強く取り組みなければならぬ。また、新庁舎建設は町づくりの重要な事業の一つであり、利用しやすく、親しみが持てる町のシンボルとして、また、防災の拠点として建設に道筋をつけ住民サービスの向上を図ることが最大の責務であると考えている。

質問 公約以外で町が対応しなければならぬもの、緊急を要するものなど、取り組まなければならない施策・事業はあるか。

策・事業はあるか。

答弁 少子・高齢化が急速に進展しており、子育て環境の整備、少子化対策は急務の課題と考えている。高齢者の元気度が町の活性化になる。医療、福祉は地域と行政が連携し、充実させなければならない。

また、庁舎については被災後の状況を勘案し、早急に対応しなければならぬ。喫緊の課題と考えている。

質問 重点事業、懸案事業については大金町長自ら陣頭指揮をとり、推進すべきと考える。新聞報道によれば再選出馬を表明とのことであるが、あらためて町長の所信を伺う。

答弁 課題が山積している中で、各種懸案事項に道筋をつけることが私に与えられた使命と考えている。来る町長選に立候補し、将来に希望を持って安心して暮らせる町づくりを目指し、政策実現のため町民とともに誠心誠意取り組んでいきたい。